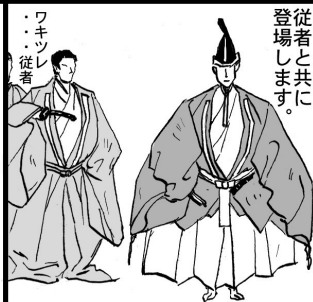


「鱗形」

ワキの北条時政が、ワキ・・・北条時政
従者と共に
登場します。



ワキッレ者
時政は武門の家に生まれたものの、
未だ旗の紋が決まっていなかったので、
江ノ島の弁財天に祈願して
授けていただくことにしました。



一行は江ノ島の弁財天の社に
到着します。



そこへ1人の女性（前シテ）
が現れて、時政に話すことが
あると言います。



面・・・増



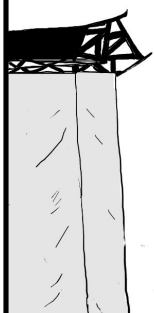
前シテ・・・里女

時政が何者かと
訪ねると



女は
自らが弁財天で
あることを
ほのめかします。

神は夜を待てば望みを叶えようと
言い内陣へ入ります。



間狂言の
末社神が
現れ、江ノ
島の弁財
龍神の口
を明神の
語りま
す。

時政が祈っている
神殿がにわかに鳴動し、
雲が晴れます。



そして
まばゆい光と共に
弁財天（後シテ）が現れます。



後シテ・・・弁財天

弁財天は、時政に三つの鱗の
旗印を
与えます。



それらの姿は
美花のよう
でしかった。

自分が世にある限りは、
四方から敵が寄せるとも、
この旗を差し上げたらば
神通力をもつて敵を払ってやろう、
と神と力をもちたい神託をなして、
弁財天は社殿へと入ってゆく
のでした。

